

平成29年11月22日

一般社団法人日本溶接容器工業会

バルク貯槽の計画的なご注文等について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。常日頃より当工業会の活動にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、バルク貯槽は平成9年の液化石油ガス法改正より普及が始まって以降、今や設置基数は全国で約30万基に至り、我が国のLPガス供給に大きな役割を果たしております。このバルク貯槽は製造後20年以内で「バルク供給及び充てん設備に関する技術上の基準等の細目を定める件(以下、バルク貯槽・充てん設備告示)」による検査を行うことになっております。また、LPガス容器と違い、検査を受けなければ製造後20年経過した時点で供給設備として運用できなくなります。

本年はバルク貯槽・充てん設備告示の検査が始まる年となり、今後は検査対象のバルク貯槽が増える傾向となります。従いまして、バルク貯槽は新規需要に加え交換需要が多く見込まれています。

しかしながら、近年のバルク貯槽メーカーの生産実績等に照らし合わせますと、生産量を大幅に超える需要が見込まれることにより、今後の納期が逼迫し、受注から納期まで多大な期間を要することが懸念されます。

バルク貯槽メーカーでは、これらの対応に万全の態勢をとって対処する所存ではありますが、円滑なバルク貯槽の納入をご希望される皆様におかれましては、前倒しの交換工事をご計画頂くとともに、バルク貯槽メーカー若しくはLPガス販売事業者様へ事前のご相談を頂きますよう、早めのご準備をお願い申し上げます。

以上